

田作の東郷元帥像がある。ついにパリでも演奏会の説明をさせられた。

私のクラスには寺内、耳野、鈴木保徳など優等生がおり、金観鐘は首席で卒業した。私は入学も卒業もビリの劣等生であったが、優れた同級生と仲よく往復した。劣等生で病い勝ちであった私がひとり長生きをして思い出を書くのも不思議に思う。

最後に内話を付けたしたい。建築科を繰上げ卒業した長男俊一は軍隊に入り間もなく大陸で戦死した。その前年十九年二月疎開の荷作りをしていると安井曾太郎夫人が私をよびに来た。安井が美術学校教授に就任したので私に案内役のつまり助教になれと話をされた。安井の好意はわかるが、自ら不適任を知っていた。しかしその場は謝意を述べ疎開先から正式に辞退した。これは私にも学校にとっても良い事であったと信じている。その後伊藤廉が学部長の時、雨田光平が講堂で箏曲の演奏を望んで来たので伊藤の意向を聞きに出かけた。その日は学部長への用談だから宮殿風の表玄関から名刺を通じて面会をもとめた。学生時代は横の入り口から出入りしていたので懐しい学校の表玄関を上ったのははじめてである。この校舎は私のクラスから使い始め、伊藤訪問後久しからずして改築されたと聞く(敬称略)。

第十四節 大正三年

大正三年度東京美術学校年報

甲 款

概況

大正三年四月二日午後一時ヨリ本校第二十三回卒業證書授與式ヲ舉行シ同二時ヨリ本校開校滿二十五年紀念式ヲ行ヒ別室ニ陳列シタル本校所藏ノ参考品及卒業製作ヲ來賓ノ觀覽ニ供セリ

同年四月三日ヨリ同月五日マデ本校開校滿二十五年紀念展覽會ヲ開キ公衆ノ觀覽ニ供セリ

同年同月七日豫備科及圖畫師範科入學許可者氏名ヲ官報ニテ發表セリ

同年同月十一日 皇太后陛下崩御アラセラル 上下悲痛極リナシ 乃本日ノ授業ヲ休止シ奉悼ノ誠意ヲ表シタリ

同年五月二十四日 皇太后陛下ノ大葬儀ヲ行ハセラル、ニ付本校職員生徒一同ハ葬場殿前ニ於テ奉送ス

同年六月六日同七日ノ両日支那國人廉泉氏ノ齋シタル書畫ヲ本校文庫ニ陳列シテ有志者ノ觀覽ニ供セリ

同年九月二十一日選科入學許可者ノ氏名ヲ官報ニテ發表シタリ 同年十月四日ハ本校設置紀念日ナルモ大喪中ニ付紀念式ヲ行ハス

同年十一月三日桑港博覽會本校出品物四十七點ヲ本省へ送付ス 大正四年一月八日午前十時ヨリ例ニ依リテ職員生徒一同講堂ニ參

集シテ授業始ノ式ヲ舉ゲ 勅語奉讀ヲ行ヒタリ

同年三月二十九日午後一時三十分ヨリ本校第二十四回卒業證書授
與式ヲ舉行シ別室ニ陳列シタル卒業製作ヲ來賓ノ觀覽ニ供シ翌三
十日ハ有志者ニ之ヲ觀覽セシメタリ

規程

大正三年六月十九日勅令第二百二十四號ヲ以テ文部省直轄學校ノ教
育ニ付功勞顯著ナルモノニハ名譽教授ノ名稱ヲ與フルコトヲ得
同年九月五日文部省令第二十八號ヲ以テ本校各科（圖書師範科ヲ
除ク）規程ヲ定メラレタルガ從來ノ圖案科ハ之ヲ第一部（工藝圖
案）第二部（建築圖案）ニ分タレ漆工科ノ次位ニ製版科ヲ増設セ
ラル 又同日文部省令第二十五號第二十七號ヲ以テ東京高等工業
學校規程中ヨリ工業圖案科ヲ削除シ現ニ在學セル同科生徒及之ニ
付帶スル生徒ノ教養ヲ本校ニ委託スルヲ得ル旨公布セラレ同月十
一日ヨリ本校ニ於テ授業シタリ

同年十二月二十八日文部省令第二十八號ニ基ツキテ本校規則ヲ改
正ス

大正四年二月二十日文部省令第三號ヲ以テ本校ニ臨時寫真科ヲ設
置セラレタルヲ以テ同月二十四日本校規則ヲ改正シ之ヲ製版科學
科課程表ノ次位ニ列セリ

設備

一、建築科設備費

二、寫真科設備費

以上ノ兩科ヲ設クルノ緊急必要ナルコトハ本年報中ノ將來施設上
重要ト認ムル事項欄ニモ述ブル所ノ如クニシテ豫算ニモ之ヲ計上

セリ 唯此中寫真科ハ大正四年度ヨリ臨時ニ之ヲ置カレ當業者ノ
寄付金等ヲ以テ授業上ノ費途ニ充テツ、アレトモ從來餘裕ナキ本
校ノ經費ニテハ是等ノ設備ヲ如何トモスル能ハサルヲ以テ茲ニ之
ヲ支出セラレンコトヲ切望ス

三、圖書標本費

藝術家ヲ教養スル本校ニ在リテハ美術品及美術工藝品ノ標本ハ實
ニ其生命トモ云フベキモノナルヲ以テ成ルベク之ガ蒐集ニ努ムレ
トモ從來ノ經費ニテハ到底引足ラス購入ノ上ニ於テ遺憾少カラサ
ルヲ以テ是亦増額セラレンコト切望ニ堪ヘサルナリ

職員

本校職員ノ俸給及諸給ノ豫算ハ屢本項ニ記スガ如ク常ニ不足ヲ告
グ 之レ他ノ直轄學校ニ比シテ平均額ノ低キト從來各科増設ノ際
増員ノ少キトニ職由セリ 故ニ平均額及俸給豫算ノ増加ハ切ニ望
ム所ナリ

建築科寫真科ハ前項ニ述フル所ノ如クナルガ増設ノ際ニ方リテハ
是亦定員及俸給豫算ヲ増加セラレンコトヲ望ム

本年度ニ於ケル職員ノ數ハ學校長一人教授二十七人（内五人他校
ヨリ兼務）助教授十五人（内一人他校ヨリ兼務）書記六人囑託講
師十三人同教員七人同醫師一人副科囑託三人教務雇九人事務雇七
人ニシテ之ヲ前年度末ニ比スレハ教授ニ三人ヲ書記ニ一人ヲ囑託
講師ニ四人ヲ教務雇ニ二人ヲ増シタリ 之レ本年度ニ於テ製版科
ノ増設セラレタルニ依レリ

外國留學生ハ前年度末ニハ一人アリシモ本年度末ニハ之ヲ減セリ
休職員ハ其數前年度末ト同シク計二人（内教授二人）ナリ

生徒

全体ニ於ケル生徒ノ學力操行健康ノ状態ハ前年度ニ比シテ著シキ差違ナク新入學生モ亦前年度ニ比シテ大差ナシ

本年度新入學生ハ本科九十二人選科十三人(外ニ外國人四人)圖書師範科二十四人研究生二十二ニシテ其入學者ノ學力ノ程度ハ本科生ニアリテハ官公立中學校卒業生三十六人私立中學校卒業生三十五人工藝學校卒業生十三人工業學校卒業生八人選科生ニアリテハ工藝學校卒業生一人工業學校卒業生三人中學校二年以上修了者二人高等小學校卒業生七人圖書師範科ニアリテハ官公立中學校卒業生九人師範學校卒業生十五人研究生ハ二十二ニ人ハ孰レモ本校卒業生ノ入學シタルモノナリ

新入學生ノ年齢ハ本科生ハ最高二十四年九月最低十八年一ヶ月平均二十一年選科生ハ最高二十三年三月最低十七年九月平均二十年一ヶ月圖書師範科生ハ最高二十六年二月最低二十年平均二十二年四月研究生ハ最高二十八年七月最低二十三年九月平均二十五年十月(孰レモ外國人ヲ除ク)ナリトス

生徒ノ入退學ハ本年度入學者ハ本科九十二人選科十三人(外ニ外國人四人)圖書師範科二十四人研究生二十二ニ人再入學者六人ニシテ退學者ハ病氣退學四人家事係累退學四十一人除名十四人死亡七人在學資格消滅十五人(内豫備科七人研究生七人圖書師範科一人)轉科一人アリ 今之ヲ前年度ニ比スレバ入學者ニアリテハ本科選科共ニ四人ヲ圖書師範科ニ五人ヲ増シ研究生二十人ヲ再入學者ニ一人ヲ減セリ 退學者ニアリテハ病氣退學ニ五人ヲ減シ家事係累退學ニ十一人ヲ除名ニ五人ヲ死亡ニ四人ヲ在學資格消滅ニ八

人(内豫備科二人研究生六人)ヲ増シ逐學ニ一人ヲ減(本年度ナシ)シ轉科ニ一人ヲ増(前年度ナシ)シタリ

生徒ノ員數ハ本年度末ニ於テ之ヲ前年度末ニ比スレハ西洋畫科ニ十人彫刻科ニ九人圖案科ニ四人漆工科ニ五人圖書師範科ニ六人ヲ増加シタルガ日本畫科ニ一人金工科ニ二人鑄造科ニ四人選科ニ二人研究生ニ十四人減少シタルヲ以テ差引十一人ノ増加ヲ見タリ而シテ又本年度末ニ於ケル外國人ハ選科生中ニ支那人十二人アリ本年度ノ卒業生ハ本科五十一人選科十二人圖書師範科十六人計七十九人ニシテ前年度ニ比スレハ五人ヲ増セリ

生徒中學術品行殊ニ優等ナルモノヲ撰ヒテ特待生トシ大正三年九月ヨリ一學年ノ授業料ヲ免除シタルモノ十五人アリテ前年度ニ比スレハ一人ヲ増シタリ

生徒ノ前學年ニ於ケル勤^(惰)ヲ考查シ精勤者ニ賞状ヲ授與シタルモノ五人アリテ前年度ニ比スレハ五人ヲ減セリ

實業學校教員養成規程ニ依リテ毎月學資トシテ一ヶ月金五円ヲ補給シタルモノ前年度ニハ一人アリシガ本年度ハ之ヲ缺ケリ

圖書師範科生徒ニハ學資トシテ毎月金六円ツ、ヲ支給ス 本年度ノ支給人員ハ三十四人ニシテ前年度ニ比スレハ二十人ヲ減セリ

大正四年三月末卒業スヘキ各本科選科生徒ノ實地修學ノタメ同三年四月十二日ヨリ三週間ヲ以テ教授一人助教一人嘱託教員一人雇一人ヲシテ之ヲ引率セシメ京都府奈良縣滋賀縣へ出張シテ美術上ノ研究ヲナサシメタルコト前年ニ同シ

大正四年三月末卒業スヘキ圖書師範科生徒ヲシテ實地授業法調査研究ノタメ大正三年十月十四日ヨリ十日間ヲ以テ教授一人ヲシテ

引率セシメ奈良縣大阪府京都府静岡縣へ出張研究ヲナサシメタルコト是亦前年ニ同シ

本校ハ皆通學ナルヲ以テ寄宿舎ニ關シテハ申報スヘキ事項ナシ
將來施設上重要ト認ムル件

甲 留學生増派ノ件
〔明治三十九年、大正二年度報告と同文につき省略。〕

乙 生徒實地研究費増額ノ件
〔明治四十一年、大正二年度報告と同文につき省略。〕

丙 建築科特置ノ件
〔明治四十四年、大正二年度報告とほば同文につき省略。〕

丁 寫真科本設置ノ件

寫真學ハ歐米ニ於テハ一學科トシテ大學ニ講座ヲ設ケ又ハ美術學校高等專門學校ニ寫真科ヲ置キ若クハ米國ガ大學ヲ設クルガ如キ或ハ寫真研究所ノ施設ヲナシ以テ學科ノ研究ト技術者ノ養成ニ多大ノ努力ヲナスノ現況ナリ 然ルニ本邦ノ實況ヲ顧ルニ斯業漸ク社會重要ノ位置ヲ占ムルニ至レルニ拘ラス其從業者ハ多クハ寫真師徒弟ノ出身ニシテ學問ノ素養アルモノ少ク學術ノ進歩ト追隨スルニ難ク技術進歩ノ遅々タルハ固ヨリ其所ニシテ從テ寫真技術家ヲ養成スルノ施設ヲナスハ今日ヨリ急務ナルハナシ 本校既ニ製版科ヲ置カレ尋テ臨時ニ寫真科ヲ設ケラレタルモ差向キ當業者ノ寄付金等ヲ以テ授業上ノ費途ニ充テツ、アルノミニシテ未ダ此科ノ設備ヲナスヲ得ズ 依リテ此際本校豫算ニ計上セル所ノ金額ヲ支出セラレ永久ニ此科ヲ置キ設備ヲ完全ナラシメンコトハ切ニ望ム所ナリ

戊 陳列館新設ノ件
〔大正二年度報告とほば同文につき省略。〕

雜件

生徒實験ノ資ニ供スルタメ諸所ノ依頼ヲ受ケ製作ニ從事シタルモノ、中重モナルモノヲ舉グレバ左ノ如シ

依頼製作品一覽

品名	數量	受託年度	竣工未竣工別	本年度内竣工未竣工	依頼者
中央停車場壁畫	拾五坪	前年度	竣工	鐵道院	
松方侯爵銀像	壹軀	本年度	同	日本赤十字社	
純銀製香爐	壹合	同	同	宮内省調度寮	
貳拾五菩薩來迎圖模本	壹枚	同	同	臨時博覽會事務局	
大正博覽會賞牌(容器共)	九千六百卅六個	同	同	東京府	
純銀製花瓶	壹對	同	同	福岡縣八幡町役場	
純銀製花瓶	壹對	同	同	東京府	
純銀製楠公坐像	壹軀	同	未竣工	木南正宣	
片岡直温銀像	壹軀	同	同	日本生命保險株式會社	
梨子地御紋散シ時繪御書棚	壹架	同	同	宮内省調度寮	
故佐竹侯爵銅像	壹軀	同	同	戊辰勤王記念銅像建設委員長遠山規方	

『東京美術學校校友會月報』記事抜粹
東京美術學校近事〔十二—九〕
年 月 日
T・三・二・二八

○職員の敘位 去る一月二十日付を以て、本校教授岡田秀氏は正七位に昇敘せられ、助教授正八位長原孝太郎氏は從七位に昇敘、書記高田松男氏もまた從七位に敘せられたり。

○磯野書記の休職 書記磯野富之助氏は、去る一月廿三日付を以て